

## 平成30年度すぎなみ大人塾 合同成果発表会

日時 平成31年2月16日（土）13：30～17：00

会場 セシオン杉並ホール

総合司会 社会教育センター社会教育主事 中曽根聡

こんにちは。今回の成果発表会は事情があって初めてセシオン杉並ホールで実施します。このような状況でも気楽にやっていただけたらと思います。実は、ホールでポータブルマイクを使うのもセシオン初となります。いつものように発表してくださるとうれしいです。後半は、お互いに話す機会をつくりたいので時間をとっております。それでは、開会に先立ちまして、ご挨拶をいただきます。

生涯学習推進課長 本橋宏己

本日は、お集まりくださりましてありがとうございます。今回の合同発表会は、平成最後となります。あっという間に、平成が終わってしまいますね。NHKの番組で「チョコちゃんに叱られる」という番組があります。大人になると時間があっという間に過ぎる理由を解説していました。大人になると、ときめきが少なくなるからだそうです。子どもはすべての経験が新鮮でときめきが多く、大人は経験がある分、ときめく機会が少ないため時間が早く過ぎてしまうと感じるそうです。ここに参加したみなさまは、子どものようにたくさんのときめきを感じた方が多いと思います。ですから、今年は長く感じてくださったことでしょう。有意義に過ごせたのであれば、主催者としてはうれしい限りです。運営してこられたのは、みなさまのおかげでございます。感謝申し上げます。卒業生は、延べ1000人いるそうです。みなさまもその一員になり、地域の担い手として活躍して下さったらと大いに期待しております。この度は、おめでとうございました。

総合司会

それでは、順番に発表をしていただきます。

## 【総合コース発表】

学習支援者 伊藤剛さん

総合コースは「コトバ・ラボ」と題して、コトバを通じて、「自分」を学んできました。受講生は9ヶ月にわたる講座受講をしてきて、多彩な講師にお会いしました。

9ヶ月にわたる講座の概要をお伝えいたします。総括で申しますと、コトバは文化で、

時代で、人間関係で、そしてなにより自分自身です。コトバを通して、この世界のありようを読み解きたいと始まった10回の講座です。専門分野の先生が持ってきた問いを選んで、みんなで考えました。たとえば、「日本人は“おはよう”と家族に言うのに、“こんにちは”とは言わないのはなぜか」「AIはどこまでコトバを理解しているのか」「日本人が中国の人を表すときは、どうして“アル”と語尾につけるのか」などなど、当たり前前に話している日本語を自覚して学んでいきました。熱気あふれる生徒さんばかりでした。では、発表をどうぞ。

報告1 「オノマトペとは何か」をお伝えします。

「オノマトペ」はフランス語で、擬声語と言われます。「トントントン、こぶじいさん♪」「キラキラキラ、手はおひざ♪」このように、トントントン、キラキラはオノマトペです。古事記にも、塩をまわすシーンでも、「こをろこをろ」と表記しています。今で言うと、コロコロです。代表的な擬音語には、雨の音がありますね。ザーザー、ピチャピチャと雨の音だけでたくさんあります。オノマトペは、思った以上に日常にあふれていると実感しました。ぜひ、みなさんもまわりのオノマトペを探してみてください。

報告2 「役割語」をお伝えします。

「おお、そうじゃ、わしが知っている」「うん、そうだよ、ぼくが知っているよ」「そやそや、わてが知ってまっせー」さて、これらのコトバはどんな人が言っているでしょうか。なんとなく想像できますよね。これらのように人物をイメージできる言葉を役割語と言います。ステレオタイプを言語化したものであり、実際にそのように話す方はとても少ないです。とはいえ、聞いたり、読むと人物を連想できますよね。田舎言葉、奥様言葉、武士言葉、ロボット言葉など、想像の世界で共通理解が進んでいるようです。老人語は、江戸時代に起源があります。当時は、金持ちは上方から来ていました。こうした中、歌舞伎文化を持つ江戸っ子と、浄瑠璃文化を持つ上方とに社会階層がわかれてきました。時代が下り、江戸っ子の話し言葉が標準語になり、上方の金持ち層の言葉が老人語という役割語になったそうです。言葉は生き物で、文化によって言葉が生まれて、発展していくことを学びました。役割語は日本では特に進んでいます。一方、アメリカでは差別を助長するので、今では勧められていないとのこと。こうしたことを研究している方のお話を聞くのも、大変新鮮でした。

報告3 「なぜ言葉は生まれたのか」をお伝えします。

言葉のはじまりは歌であったそうです。アフリカ語のピグミー族はずっと歌って、気持ちを歌で伝えていきます。表情とは正直な言葉といわれています。SNSなどの言葉は、感情のない言葉。正直ではない言葉になりえます。これが進むと、言葉によるレッテルづけになるのです。イスラム教徒はテロリストというような誤りがおきる可能性があります。

す。映画で、レットルづけの癖を逆手にとって、何でも「イエス(yes)」と答えた男の人生が大きく変わった物語があります。黒沢明監督の「生きる」という映画では、主人公が死への恐怖から再び、自分の人生を生きることを選び、住人の要望を聞き、助けていくことで、主人公は心の平安を取り戻しました。オノヨーコの「イエス」という作品は、階段を登った先に小さなイエスが書いてありました。私自身の経験の中では、会話の中でも、「おもしろい」と試しに言っていたら、会話がうまくいきました。相手も「おもしろい」と言われると、話がはずみます。私も、世の中の「おもしろさ」を発見できるようになりました。

報告4 「コトバと時代の関係性」をお伝えします。

コーパスとは、人間の言葉をデータベース化し集めたものです。1億語も集約され、研究されています。言葉は時間と組み合わせることで変化していきます。「やばい」という言葉は、最近では「すごい」という意味でも使われています。「コトバ・ラボ」では、言葉を理解する切り口として、対象比較を試してみたり、分類してみたり、時間軸を見てみたりと様々なアプローチで言葉について講義をしてくれました。私自身は、意識・無意識という分け方をしてみました。

自分では、「なんか」をよく使っていました。「なんか、いい古民家ですね」「なんか、すみません」「なんかあったの?」というように、「なんか」も使い方はたくさんあります。

こうして1つの言葉から自分のことも見返すようにしてきました。答えが出てしまうと終わりです。自分の問いを見つけると始まりになります。問いは始まりです。こうしたことを、この講座で学びました。講師の先生方、学習支援者、運営の方、みなさま本当にありがとうございました。ご静聴ありがとうございました。

総合司会

総合コースの皆さん、ありがとうございました。

ロビーに学習支援者の伊藤さんが作成した「問い」が置いてありますのでぜひご覧ください。続きまして地域コースの発表です。地域コースは卒業生の皆さんにも企画から運営までご協力を賜っています。より地域の中で何かをやってみて、やりながら、経験を振り返り、地域で実践するかたちです。それでは、お願いいたします。

#### 【高円寺コース発表】

学習支援者 川上和宏さん

高円寺コースは、「もっと高円“人”」と題しての全体概要をお話したあとに、実践報告をいたします。消費（商業地）でしかつながらない地域に、他のつながり方をしていく。自分とまちをつなげる場として、たまり場を作っていくことを目的にしました。

前半は、コミュニティカフェの方にお話を聞き、たまり場のアイデアを考えました。この中で4つの実践がありました。

報告1 「シェアミュージックNight Vol.1」を企画しました。

1月23日に、自分の聴きたい曲、誰かに聞いて欲しい曲をリクエストし、シェアする場を「ヒトツナ」（高円寺のフリースペース）さんに設定しました。多様性を大切に、なんとなく集まって、楽しめる場を目的としています。当日は、27名（通りがかりの方3名参加）が参加してくれまして、リクエストカードを受付で書いていただき、それをディスプレイ。自己紹介後、参加者がそれぞれの曲を聞いたり、話したり、踊ったりと自由な時間を過ごしてもらいました。空間デザインを工夫したので、通りがかりに興味をもってくれた人も多かったです。いつものスペースに、違う切り口を与えることになったと思います。仲間内だけではなく、いろんな方が集まる場を表現できたと思います。「また参加したい」という声もたくさん頂き、またやりたいです。音楽というのは、互いに面識のない方でも自由に話せるきっかけになると思います。

報告2 「たまりBA」

1月26日、17時半より始めました。自分たちが楽しんで行っている写真の様子をご覧ください。飲み会をやりたいという気持ちからスタートし、大人塾生と高円人が気軽に集まって会話を楽しむ場です。参加者19名、自己紹介をじっくりやって、自分との共通点を見出せるように工夫しました。これをすると、意外な共通点があることがわかります。ゲストで来た方でも発表したり、気軽にその場を楽しめるようにすることを考えました。レミニン（回想療法）を題材にしたものをまたやりたいと思っています。いろんな出会い、情報を得られるための入り口。まちとつながる入り口になれば幸いです。そんな、たまり場です。

報告3 「たまり場創造プロジェクト」

1月27日、14時より実施、参加者15名、出会った仲間と今後実践していくための集いの場づくりです。たまり場そのものを考える会とも言えます。これを話していくのも楽しいのではないかとスタートしました。お互いに話せる場にしたいと思ったので、コミュニケーションを大事にしました。会場は、高円寺純情商店街の「まちの駅」を活用しました。心配したより、とても盛り上がりました。架空でもよいのでやってみたい企画を提案し、その企画のチラシを作り議論しました。何かをしたいという思いを共有したと考えています。担当者同士で当日までに何度もミーティングを行いました。この準備で目的を統一して、コミュニケーションを重ねたことが、つながりになったと思います。次回3月7日にも、継続して活動する予定です。

報告4 「まずは、演奏おひろめ会」です。

1月27日、15時半より実施、みなさまのおかげで、無事に成功できました。高円寺が音楽のまちということで開催しました。音楽をやっている方も発表の場がない方が多かったので、その発表の場を作ったわけです。2部構成で、最初は演奏、その後は交流会です。広範囲の方が集まり、チラシやFACEBOOKなどの成果だと思います。チラシで参加した方もいらっしゃいました。失敗しても初心者同士なので、和気あいあいとした演奏になりました。楽器を使って、交流もできました。合同練習やバンドの結成などもでき、別の時間帯で参加したいという声もあり、つながりが増えました。この会をきっかけに、楽器に興味のなかった私の家族も演奏をしてくれるようになり、音楽の力を改めて感じました。

学習支援者

以上、4つの実践を行いました。関心や問題意識の違いもわかったと思います。今後、つながりたい方、たまり場に参加したい方がいらっしゃいましたら、どうぞご連絡ください。

総合司会

高円寺はにぎやかな場所ですが、新たなたまり場が増えつつありそうですね。楽しいまちになりそうです。続いて西荻コースです。

#### 【西荻コース発表】

学習支援者 船尾本さん

学びの案内人の船尾と申します。西荻コースは、シニアの参加が多かったのです。若い人を巻き込むために、学習支援補助者として関わっている卒塾生がチラシを作って参加を促しました。全体の動きを理解するために、「がんばれーBOOK」を作り、指標にしてもらいました。暮らしをサイズアップということで、「触る・知る・活動する」というプロセスをデザインしていきました。志が近い者同士が集まり、互いに話し合い、自分の思い、考えが合う人とチームを作ってもらいました。その後、参考になる先輩たちに取材をしていき、実情を知り、その成果を企画にまとめました。提案先を決めて押しかけ提案するところまでがこの講座の目標でした。結果が出てくると、自分のテーマが決まってきます。それが、来年度につながればと願っています。今年度も2枚目の名刺をつくり、自分の名前と自分の得意なことを書いてもらいました。毎回、熱心で、アンケートもみっちり書いた方が多かったです。他人と違う意見をたくさん聞き、試行錯誤がたくさんあり、悩みが多く生まれました。それを乗り越えての発表です。やっといううちに、だんだん、自分がまちの主人公になっていったのです。農業をやりながら地域とつながっている方からは「地域とつながる方法」を、西荻窪の歴史を探っていた

方からは「どんどん首を突っ込む姿勢」を、企業・団体のCSR（corporate social responsibility：企業の社会的責任）を研究している方からは「おもろい人となること」等の金言を頂きました。大人塾の先輩が来てくださって講義をしてくれましたことは、大人塾が10数年の講座継続の歴史から生まれたものです。

デザイン思考というのがあります。プロセスをデザインすることです。市場調査が中核なのですが、受講生がまちを探る過程、まちを知っていく過程を介して人とつながることが一番の収穫で、この講座の主な目的の一つと考えています。プロセスには試行錯誤もあります。

共感、問題定義、アイデアを出して、プロトタイプ（試作）を考え、最後にテスト試行をしていきます。多世代交流とのつながりづくりになりました。では、発表をお願いします。

#### 報告1 「こどもの居場所」

西田小、桃二小、松溪中がある地域の子ども食堂、学習支援をしている方々はじめ、子どもに関心のあるメンバーが集まり、実際に先輩の団体に話をお伺いしました。また来たくするような子どもの居場所を作りたいと思い、荻窪でネパールの子弟が通うエベレスト・インターナショナル・スクールで、内外の昔遊びを伝えていく企画を考えています。昔遊びを通じて、小学生同士がつながる会です。第2回は、それぞれの国の昔遊びを教え合うことを考えています。

#### 報告2 「西荻の商店街を楽しむ」

西荻は23商店街があるまちで、それぞれ商流の情報を中心に発信しているのでサードプレイスを作り、情報の発信基地を作りたいと考えたチームです。奥秋さん主宰の合同会社・西荻案内所のサポーターとして関わるようになりました。また、子どもや外国人も理解できるように、西荻案内所に優しい表記を提案しました。将来は、西荻窪駅前にブースを作りたいと考えています。

#### 報告3 「本を通じてのコミュニケーション」

この企画を考えたチームは、西荻にちなんだ本をお互いに持ち寄ることにしました。昔と今の西荻を見比べる企画、訪れる企画も考えています。本には物語と歴史があるので、多くの人をつなげるきっかけになるでしょう。

#### 報告4 「外国人との交流」

大学の留学生を中心とした文化交流が目的のチームです。「西荻みなみ」というコミュニティスペースができましたので、こちらで異文化交流の企画を考えています。地球人交流パーティーと称して、交流会を開催しました。さいころ、射的、おりがみを通じて、

仲間とつながりました。20名が集まってくださいました。東京女子大の香港からの留学生がチラシを作ってくださいました。今回の結果を考えると、外国人の方の集客をもっとがんばりたいです。次は5月に、実施する予定です。

#### 報告5 「若者を支援する」

チームかけはしということで、不登校や生きづらい課題をもった子どもを支援したいと集まりました。杉並区社会福祉協議会などにお話をお伺いし、地方と都会のかけはしになる企画を考えています。西荻センターまつりで、芋煮を企画しています。若者の参加をよびかけています。

#### 報告6 「朝活、夜活チーム」

西荻のおもしろさをもっと知りたい、地域の人とつながりたい。地域と人の活性化に貢献したいと集まりました。「まちに還ろう」という気持ちです。取材をしたり、神明通り商店街の朝市にでていきました。小説家の方からお話を伺い、企画は形にしてみるのが大事とわかりました。1月なので、書き初めをやってみました。やる前は心配でしたが、スタートしてみると、91人が参加してくれたのです。これからも、朝活、夜活を通して、西荻をもっと知る機会を作りたいです。オープンに継続したいと考えています。

#### 総合司会

西荻コースの皆さん、どうもありがとうございます。3コースそれぞれおもしろいことをやってくださいましたね。杉並区は、10年未満お住まいの方が多地域でもあります。引っ越してきた方、長く住んできた方がそれぞれつながり、仲間が増えるのは本当にうれしいです。

#### 【皆勤賞授与】

受講生の皆さんは、ご家庭やお仕事の合間をぬって、ご出席してくださっています。この中で、皆勤賞がいらっしゃいますので、こちらで発表をさせていただきます。後ほど、コースの担当者から皆勤賞の賞状をお渡しさせていただきます。

次に、すぎなみ大人塾連が主催しております「すぎなみソーシャルデザインゼミ」の発表をお願いいたします。

#### すぎなみ大人塾連 朝枝晴美代表

すぎなみ大人塾連主催で「すぎなみソーシャルデザインゼミ」を平成30年11月から31年1月の間に3回にわたり行いました。すぎなみで、NPO活動されている方の貴重なインプットの機会としました。特定の地域で暮らしていると、なかなかインプットの機会は

少なくなります。杉並区にはミミズクが出るそうで、英知の象徴の動物がでてくるのも杉並らしいと誇らしく思います。1回目は、これからの学校をデザインしてきた寺脇研先生のお話を聞きました。教育の持つ可能性を考えると学力格差はOKでも、教育環境格差はNGと言われました。小学校1年生のスタートは同じで、個人の頑張りで差がでるのは仕方なくても、スタートの環境に格差がでるのは良くないです。子供のための仕組みを継続的に行うのが大切と言われました。2回目は、高齢者の健康を研究している辻哲夫先生のお話を聞きました。健康寿命は口腔ケアをすべき、歯が大切であり、認知症予防は薬よりも、社会に関わること。定年延長よりも、社会に参加した方が、健康寿命が長くなるはずだとおっしゃっていました。その際、当事者に寄り添う支援者がいることが必須の要件である、ということが高齢者健康調査で判明しているとのことでした。3回目は、若者が踏み出せる地域の在り方を考える津富博先生、池田佳代子先生のお話をお聞きしました。若者がやりたいことを応援すること。支援者がひとりではなく、応援団を作ること。思わぬ出会いが人を変えること。この3つをテーマに、若者の参加を促すことを教えていただきました。全3回の講座を通じて考えたのは、課題と課題に隙間があるので、制度にも隙間ができてしまいます。この隙間を可能性に変えるのが地域のつながりなのかと思います。地域住民自らが行動し、解決できるサイクルができるデザインを理想的だと思います。

すぎなみソーシャルデザインゼミの学びのナビゲーター 松山鮎子さん

全体のお話をさせていただきます。3名の先生からお話を伺い、議論を重ねていきました。教育と福祉の分野が地域でつながり、考えを深めていくのは、意義深いと思います。不登校が最多になったと統計が出ています。いじめなどの要因だけではなく、複合的な理由が多々あったり、必然的な理由がない時もあり、先生は疲弊しています。介護でも、認知症の数は65歳以上の7人に1人、さらに5人に1人に増えていくそうです。こう聞くと、将来に不安を感じます。この課題を解決しようと考えてしまいますが、義務感や使命感よりも、支援者自らが出会いを通じて、楽しんでいくこと。楽しむ感情が大事だと伝わってきました。専門的支援という関わりの他、応援者としてのつながりも大事だと言われています。人の関わりがまちに増えると良いのでは、と感じました。

総合司会

以上が前半です。後半は、皆さん同士の交流の時間です。

休憩

総合司会



セッションホールの、こういう使い方も初めてです。では、これからは、川上さんをお願いいたします。

#### 【交流プログラム「トークダンスウノ」】

司会 高円寺コース学習支援者 川上和宏

後半は、交流プログラムです。トークダンスという交流方法です。大人数で交流を促進します。ウノを加えた大人塾バージョンです。ここからは、みなさんが話してくださいね。ルールとして、動かない席は白のテープを貼っています。緑のテープが貼られた席の方が動いていきます。相手が決まったら、話す時間は1分です。音楽が鳴っている間に、卒業年度、名前、あとは自由にお話ください。1対1なので、一方的な話をしないようにしてください。問いかけ、聞くことを努力してくださいね。1分で1回ずつ、その後動いていただきます。5回動いたら、カードをひいて、条件をしばった会話にしていきます。スキップは1人とばします。ドロー2はトーク時間2分。ドロー4は4分です。さらに、色に応じたトピックを選んでいただきます。

参加者から

- ・学んだことは男女、年齢をまじえて、話せたのはすごく価値がありました。仲間から聞けたことも人生の糧です。お互いが先生でした。
- ・地域の居場所作りをしました。お金、時間などをいろいろ考えさせられました。レミニオンなど知らないことを知る機会になり、とても楽しかったです。

司会

これで交流コーナーは終わりです。おつかれさまでした。

総合司会

これからは、すぎなみ大人塾連からのお知らせと、みなさんからのPRタイムにしたいと思います。

すぎなみ大人塾連

合同成果発表会を終えると、自動的に大人塾連に入ることになっています。ぜひ、仲間になってくださると嬉しいです。キーワードは「変」です。自分とは違った人を認めていくこと。これがつながると、社会も変わっていくのではないかと思います。みなさまも変わった人になってください。飲み会だけではなく、地域でいろんな活動をしておりますので、ぜひ参加してくださいね。

### 大人塾まつり

5月18日（土）に大人塾まつりを行います。当初は、卒塾生の集いでした。5年ほど前から、幅広く地域で活躍している方が集うまつりになっています。大人塾卒塾生の活動発表の場でもあり、つながりができる場でもあります。例年45店舗ほど出店しています。自分達の活動を発表するほか、ホールでは著名人の講演会、また中庭では、コーヒーやパン、野菜の販売もあります。参加者募集は2月19日締め切りです。

### PRタイム

- ・3月7日高円寺商店街の会議室にて、たまり場について考えていきます。
- ・大人塾まつりで、毎年やっております杉並発・地域と繋がる音楽祭を実施します。一緒にステージを作ってくださいるボランティアを募集しております。
- ・大人塾まつりで無農薬コーヒーを紹介しています。
- ・まちナカ・コミュニティ西荻みなみのご案内です。西荻窪駅から3分の場所にたまり場ができております。ぜひ、参加して、たまり場をお使いになってください。
- ・愛染かつらの紙芝居をやりました。新作のアイデアの募集や、お手伝いしてくださる方を募集しております。映画の案内もございますので、チラシは入り口においております。ご来場お待ちしております。
- ・3月10日にまちづくり博覧会を実施します。阿佐谷地域区民センターです。実行委員は、大人塾卒塾生がたくさん参加しています。

### 総合司会

今日は報告から交流と長い間、ありがとうございました。最後に、松山さんから本日の成果発表会の講評をいただきたいと思います。

### 松山鮎子さん

報告会は、みなさん大変上手で驚きました。内容も魅力的なものばかりでした。活動の楽しさを感じました。トークダンスも知らない方とお話するのは、なかなかない体験でした。なんとなく大人塾に関わるようになってと言う方が多くいらっしゃいました。こういう敷居の低い中で、地域が好きだから、あの人がいるからという理由で、まきこまれる仕組みがあるのはすばらしいと思います。地域、祭り、普段のコースで仕組みができてるのは希少な例です。私自身、杉並区から学ばせていただくことが多くありました。社会学習を研究する身ですが、学生は地域に関わる機会が少ないです。大人塾に学生がまきこまれるようになると、さらに活性化するのではと期待しております。

### 総合司会

それでは最後になりましたが、私ども杉並区教育委員会事務局の生涯学習担当部長の鈴木から、閉会の挨拶をさせていただきます。

#### 閉会の挨拶

生涯学習担当部長 鈴木雄一

みなさま、本日はお疲れさまでした。卒塾おめでとうございます。大人塾に協力していただいたみなさま、本当にありがとうございます。今日の話にもありましたが、人生100年。健康であることが、すべての源です。その健康には適度な運動、栄養、休養といわれています。歯のケア、食べることが健康維持に必要なようです。とはいえ、健康で充実した人生を送るためには、学び、交流、人と地域のつながりが大切なのではと思います。卒塾されたみなさまが地域で交流し、つながりを活かして、実践されていくと思います。本日をスタートとし、これからも、地域でご貢献していただくことを願います。大人塾連にも関わっていただき、学びと交流を深め、さらに多くの人につなげてください。参加してくださったみなさまに感謝とこれからの活動に大いに期待したいと思います。本日はありがとうございました。おめでとうございます。